

令和5年度岡山県立岡山南支援学校
第3回学校運営協議会・学校関係者評価委員会議事録

日 時:令和6年2月8日(木)10:00~ 12:00
場 所:会議室(北棟3階)
司 会:中村 記録:倉永

1 開 会 校長挨拶

- ・1月~2月の取組の様子について
- ・1月末の感染性胃腸炎の流行について

2 議 事

(1) 令和5年度学校経営計画の年度末評価について

①学校経営計画書について <木村校長>

②学校経営目標・計画について <木村校長>

- ・小学部の技能検定の実施について・・・活用の検証は次年度の課題
- ・小~高への一貫性の教育について・・・高等部の生徒が小学部の児童に清掃の方法を教える取組があった。
- ・授業改善について・・・研究授業の前に参観者と観点を共有し、授業後の反省会につなげた。今年度は、学校運営協議会委員の方にも授業を参観していただき、助言をいただくことができた。
- ・ICT教育の推進について・・・GIGA支援員を授業づくりに活用した。
- ・安全安心な教育環境について・・・感染症差別についての職員研修を実施した。学校運営協議会委員の方の紹介で、防災についての職員研修を実施した。
- ・居住地校交流について・・・お互いの児童生徒にとってよい学びの場となっているが、課題も残っている。
- ・地域とつながる学びについて・・・公民館との連携や、学校運営協議会委員の方とのつながりによって学びの場が広がっている。
- ・働き方改革の取組について・・・教職員の学校自己評価アンケートでは、高評価の割合が増えてきているが、今後も課題解決に努める。

(2) 令和5年度学校自己評価アンケートの結果について

①結果の分析と報告 <中村副校長>

- ・パワーポイントを使って説明(資料参照)

②学校関係者評価 <各委員より>

《委員1》

- ・居住地校交流について詳しく知りたい。現状と今後の方向性について聞きたい。
⇒小学部教頭、中学部教頭から現状について詳しく説明。
⇒校長「学校内でも課題はある。引率教員の問題については、残っている児童生徒の指導が手薄になる。県として進めていることなので、県と課題を共有している。感想を聞くと継

続していく必要を感じている。つながりは卒業後も続いていくものであるので大切にしたい。中学部 2・3 年生は学校間での交流及び共同学習を充実させていく。

《委員2》

・保護者の意見から。トラブル対応についての回答で、学校の対応に時間がかかったとあるが、どのような対応だったのか。

⇒高教頭「事案が発生した場合、関わった生徒から丁寧に聞き取りを行い、事実関係をすり合わせて問題箇所について指導している。」

・教職員のアンケート結果で、22「連携」について「ややあてはまる」が多いということについて、小中高一貫校としては引き継ぎが大切であるが、十分ではないと考えているのではないか。

《委員3》

・教職員の評価は「よくあてはまる」の数値が低めである。「よくあてはまる」も主観なので曖昧だと思われるが、教職員の自己評価の厳しさが表れている。保護者の評価が高く、教員が低い項目について、保護者の期待以上に先生方が取り組んでいる結果ではないかと思われる。

《委員4》

・「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の評価基準はあいまいではあるが、学校の根幹である、「楽しさ」「授業改善」について、教員は自信をもって評価できるようでなければならない。「よくあてはまる」が50%を切っているものは意識していく必要がある。学校経営目標の具体的評価と照らし合わせてみて、評価が妥当かどうかもう一度確かめてほしい。

・居住地校交流について4次プランでも継続となっている。小学部の約6割の家庭が希望していない理由はどこにあるのか。本来の目的から外れることのないよう、学校としての軸を持っていく必要がある。小学部から継続をしていくことが抵抗感を軽減することにつながる。地域の中で生きるということを大切にしていかなければならない。学校の負担感は増えていくが、居住地校交流の趣旨を踏まえて進めてほしい。

《委員5》

・自由記述もたくさんあり、対応もできている。さまざまなことに対応する中で、継続している問題を課題として取り組んでいると思われる。働き方改革は数年前から実施しているが、一定の評価が出ているのか。ワークライフバランスは大切であるが、簡略化と大切にしていくことの折り合いをつけていくなかで苦労話があれば教えてほしい。

⇒校長「コロナ禍で行事の見直しを行った結果、形を変えても教育効果は変わらないことも経験、勉強することができた。教職員の中の折り合い、保護者の考えもふまえて、全て元の形にするのではなく、保護者への説明を丁寧に行い、計画・実施していく必要がある。『働き方改革』が第一ではない。」

《委員6》

・居住地校交流について、我が子が小学部の頃は始まっていなかった。保護者としては機会があれば参加したかった。迷っている保護者の背中を押していただけると、参加してみることができるかもしれない。一度参加すると安心できるのではないか。

《委員7》

・藁の提供や田植えでも協力できればと思っていた。今後も協力していきたい。PTA につい

て、他県では、任意加入や PTA をなくすという話も聞いている。今後どうなるのか。南支援はどう対応していくのかも考えておいた方がよい。

《委員8》

・自己評価アンケートは、詳細な分析がされていた。来年度に反映できるものを取り入れていくことが大切である。教職員の自由記述は非常に真摯に答えていると感じた。先生方も納得できる仕事がしたいと思っていることが伝わった。さまざまな対応に時間が必要ではあるが頑張してほしい。

《委員9》

・交流校の校長として、居住地校交流は、どちらの学校の児童にとっても大切な学びの場となっている。保護者アンケートでは、項目13「地域とつながる学習」の「よくあてはまる」が低いことについて、取組の情報発信を大切にしていきたい

《委員10》

・居住地校交流について、希望者は皆実現しているのか。大きな集団が苦手な児童生徒もいるので、大人数との交流一択では参加が難しいのでは。個人に合わせた交流も考えられるのか。そういったバリエーションと経験、実績が今後の在り方につながるのではないか。
⇒小教頭「大きな集団での交流も、本来の目的の一つとして求められていることでもあるが、大きな集団が苦手な児童については、特別支援学級との交流を望まれるご家庭もある。希望調査の時に、通常学級か支援学級かを選択してもらっている。」

《委員11》

・保護者回答率が8割を超えることは、すごいことだと思う。また、高評価回答が9割というのも良いと思われる。先生方が元気でないと、生徒は楽しくない。求めることが多すぎると先生方の元気がなくなる。効率的に行えることはどんどん進めていく必要がある。公民館として協力できることは何でもする。防災についても中教頭が参加して、地域と一緒に考えることができている。

(3) 令和6年度の学校運営についての提言及び意見交換

①令和6年度学校経営計画書について <木村校長>

・今年度との変更点及び重点的に取り組む項目について説明（資料参照）

②今後の学校運営協議会について <伊東主幹教諭>

・パワーポイントを使って説明（資料参照）

3 その他連絡事項 <木村校長>

・令和5年度卒業証書授与式について

令和6年3月7日(木)高等部卒業証書授与式、令和6年3月14日(木)小学部・中学部卒業証書授与式。いずれも来賓はPTA会長のみ。

・令和6年度学校運営協議会委員選出について

令和5年度学校運営協議会委員の皆様引き続きお願いしたい。

4 閉 会

校長挨拶